

鳥類

美しい羽模様、特徴ある鳴き声、地球規模で季節的に長距離移動する鳥類。馬場町の山林、追分町のロク八公園、志那町平湖周辺、下寺町の農耕地において、35科113種を確認しました。これらの地域全体に共通して出現した種はキジバト、コチドリ、カワセミ、ハシボソガラス、シジュウカラ、ツバメ、ヒヨドリ、ムクドリ、ツグミ、ジョウビタキ、スズメ、セグロセキレイ、カワラヒワ、ホオジロなど23種でした。1978年に行われた調査でもスズメ、ツバメ、ムクドリ、ヒヨドリなどが優占種で、普通種の生息状況については、当時からあまり大きな変化はないと思われます。

しかし、水田や草の生えた浅い湿地に生息するタマシギと、河口や河川下流の砂礫地、湖岸の砂地に生息するシロチドリは今回の調査では記録されませんでした。両種とも古くから市内に一年中生息し、繁殖していた種です。湖岸から内湖に広がるヨシ原は、草津市を特徴づける多くの鳥類の繁殖・越冬場所として、また、春秋の渡りルートとして利用されています。猛禽類では、滋賀県レッドデータブック2010年版で絶滅が危惧されているチュウヒ、オオタカ、コチョウゲンボウなど12種が記録されています。



チュウヒ (岡田登美男)

ヨシ原では絶滅危機増大種のチュウヒの雛2羽の巣立ちが確認できました。チュウヒの繁殖地は西日本では滋賀県が唯一で、全国的にもごく限られています。



絶滅危惧種のサンカノゴイ (池地秀満)

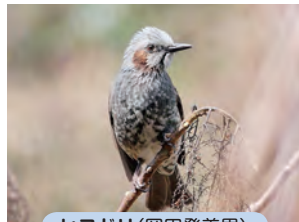
サンカノゴイはヨシ原や湿原にすむサギの仲間、1985年に下物町のヨシ原で国内初の集団繁殖が確認されました。しかし、2002年以降は繁殖が途絶え、最近是非繁殖期に希に観察される程度に減っています。サンカノゴイの一年を通した生息・繁殖地として、ヨシ原と周辺環境を再生していく必要があります。

目名	調査地全体	調査地域			
		馬場町	追分町	志那町	下寺町
キジ目	1	1	0	1	1
カモ目	12	1	7	12	11
カイツブリ目	2	0	1	2	1
ハト目	2	2	1	1	1
カツオドリ目	1	1	1	1	1
ペリカン目	8	5	1	8	7
ツル目	4	0	0	3	4
カッコウ目	1	0	1	1	1
チドリ目	11	2	1	7	8
タカ目	9	4	4	4	5
ブッポウソウ目	1	1	1	1	1
キツツキ目	3	2	1	1	0
ハヤブサ目	3	0	0	2	3
スズメ目	55	34	38	24	35
合計 14 目 35 科	113 種	53	57	68	79

●カラス類を除いた優占度の高い上位8種



スズメ (岡田登美男)



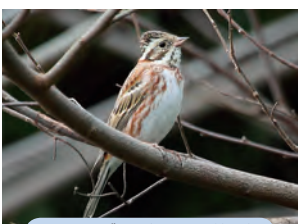
ヒヨドリ (岡田登美男)



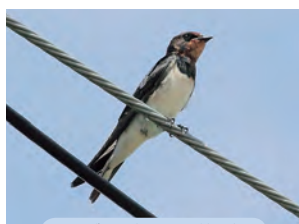
カワラヒワ (岡田登美男)



ムクドリ (岡田登美男)



カシラダカ (岡田登美男)



ツバメ (岡田登美男)



ハクセキレイ (岡田登美男)



メジロ (岡田登美男)

里山地域の鳥類

馬場町の山林と追分町の丘陵の森林を利用した都市公園のロク八公園では、シジュウカラやヤマガラといったカラ類などの森林性の鳥類や自然環境の指標となる鳥類がよく観察されました。通常は山地に生息するキクイタダキやヒガラ、クロジなどの冬鳥がロク八公園で記録されました。馬場町で8月に観察されたアオゲラを含め、市内では初めての記録です。

繁殖期にはメジロやシジュウカラ、ヤマガラ、エナガ、コゲラなどが見られ、カラ類とキツツキ類で特徴づけられる鳥類相となっていました。越冬期にはこれらのほか、冬期間を通して山林上空を帆翔するハイタカ^{はんしやう}の姿がありました。春秋の渡り時期にはメボソムシクイやセンダイムシクイ、コサメビタキ、キビタキ、オオルリなどがたびたび観察され、これらの森が渡り鳥の重要な中継地となっていることが確認されました。



シジュウカラ (岡田登美男)
里山に周年生息し繁殖します。冬にはヤマガラやエナガと混群で林内を移動します。

里山林に生息する希少種

●写真は滋賀県レッドデータブック2010年版の記載種（すべて希少種のカテゴリーに該当）



アオバト (岡田登美男)



センダイムシクイ (岡田登美男)



コサメビタキ (岡田登美男)



キビタキ (岡田登美男)



オオルリ (岡田登美男)



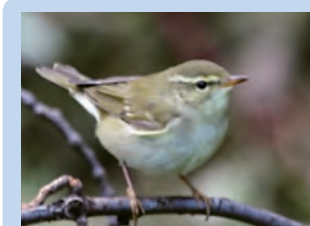
ルリビタキ (岡田登美男)



ウソ (岡田登美男)



クロジ (岡田登美男)



チョチョリ、チョチョリとさえずるメボソムシクイ (岡田登美男)

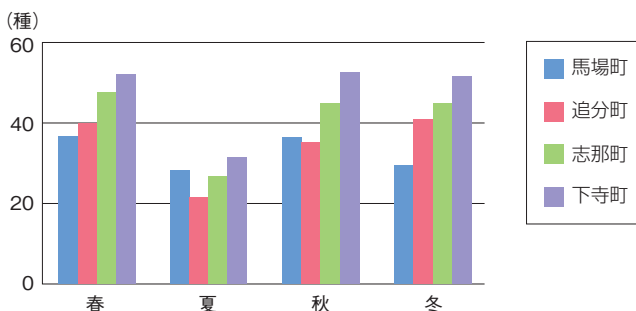
メボソムシクイは、県内の標高1000m以上の森林で繁殖する夏鳥です。11月の調査でロク八公園の林縁で青虫を採食する姿が観察されました。市内では春秋の渡り時期に通過しています。本種と外観がそっくりで、最近、分子系統や音声形質から別種とされたオオムシクイは、6月に津田江内湖のヤナギ林で1羽が記録されました。ジジロ、ジジロとさえずります。



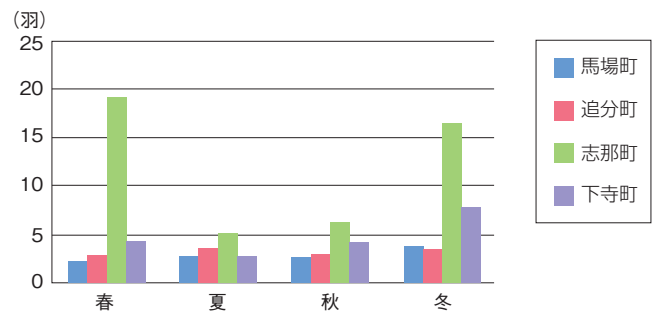
里山に渡来するサンバ (岡田登美男)

サンバは、県内では丘陵地や山麓の水田付近や山間の水系に渡来し繁殖する夏鳥で、林縁や水田の畔、湿地、草地などで小型の両生類、爬虫類、昆虫類などを捕食します。近年、減少が著しい種です。市内では、まだ繁殖記録はありませんが、秋の渡りの時期によく観察されています。今回調査では、9月に追分町で上空を飛行する5羽が観察されました。

各調査地域の季節ごとの種数



各調査地域の季節ごとの1ha当たりの平均密度



湖岸から田園地域の鳥類

琵琶湖とその周辺に広がる水田地帯にはカモ類、カイツブリ類、オオバン、カワウなどが頻繁に見られました。繁殖期にはオオヨシキリ、セッカ、ゴイサギ、チュウヒ、ササゴイ、カワセミ、ヨシゴイ、バン、ヒクイナなど、越冬期にはコガモ、ハシビロガモ、キンクロハジロ、ミコアイサなどのカモ類をはじめ、オオバン、ユリカモメ、タゲリなどの水鳥、ダイサギやコサギなどのサギ類、また、ヨシ原や農耕地周辺に集まる小鳥群を狙うタカやハヤブサの仲間がよく観察されました。

春の渡り時期には、津田江内湖のヤナギ林でキビタキやエゾビタキ、オオムシクイが記録され、秋には稲田や大豆畑の棒杭でノビタキが観察されています。水際^{かんぼく}の木立やちょっとした^{かんぼく}の茂みは、案外、見逃されがちですが、ヨシ原とともに、小鳥類の生息場所としてとても大切なところです。



カイツブリ (岡田登美男)
鳩と呼ばれ、昔から身近な存在ですが、最近、無事に育つ雛の数が半減しています。

湖岸から水田地帯に生息する希少種

●写真は滋賀県レッドデータブック2010年版の記載種 (すべて希少種のカテゴリーに該当)



ヨシガモ (岡田登美男)



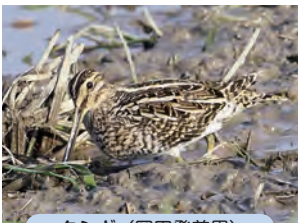
ミコアイサ (岡田登美男)



カンムリカイツブリ (岡田登美男)



バン (岡田登美男)



タシギ (岡田登美男)



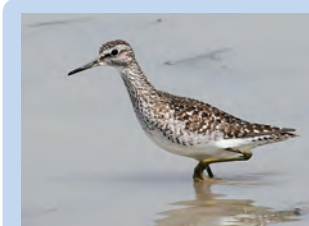
タゲリ (岡田登美男)



カワセミ (岡田登美男)

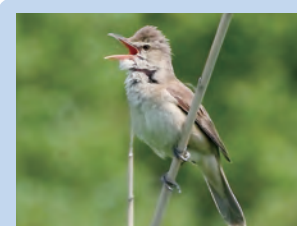


オオジュリン (岡田登美男)



水田に渡来するタカブシギ (岡田登美男)

タカブシギは下寺町の水田で5月にエサをとる2羽が観察されました。泥湿地を好むタカブシギは、春と秋の渡りの時期に、湖畔の広い水田地帯を決まって利用しています。春の渡来では、田植え前後の水田で水生昆虫やイトミミズ、カエル、小魚などの小動物を採食しているところがよく観察されています。最近全国的に急減し、国でも絶滅が危惧される種とされています。



ヨシ原で繁殖するオオヨシキリ (岡田登美男)

オオヨシキリはヨシ原に生息する夏鳥で、下寺町のヨシ原では5月から9月にかけて、志那町では葉山川の河畔に繁るヨシ原で5月と6月に観察されました。ギョッ、ギョギョッ、ギョギョシーと大声で繰り返さえずる声^{こゑ}がヨシ原から聞こえてくると繁殖の始まりです。ヨシの茎を2〜3本利用して巣をつくり、雛を育てます。湖畔や内湖のヨシ原は、オオヨシキリの大切な繁殖地です。

生物多様性の回復を目指して

今回確認された113種の約46%にあたる52種が滋賀県レッドデータブック2010年版に掲載されています。

草津市では今後も建設工事や開発が進む可能性があります。鳥類を含めた生物多様性の保全にとって大切な地域

を守るとともに、生物多様性の再生を目標とした「草津市の自然と人との共生をすすめる施策の推進計画～生き物豊かな自然の姿をめざして～」の計画を今後も推進していく必要があります。